

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 31 年 2 月 9 日 16 時 10 分～18 時 30 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 66 問で解答時間は正味 2 時間 20 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2)の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

- (例 1) 101 医業が行えるのはどれか。
- a 合格発表日以降
 - b 合格証書受領日以降
 - c 免許申請日以降
 - d 臨床研修開始日以降
 - e 医籍登録日以降
- (例 2) 102 医籍訂正の申請が必要なものはどれか。2 つ選べ。
- a 氏名変更時
 - b 住所地変更時
 - c 勤務先変更時
 - d 診療所開設時
 - e 本籍地都道府県変更時

(例 1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
101	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

101	101
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	<input checked="" type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> e

(例 2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **a** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
			↓		
102	<input checked="" type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/> e

答案用紙②の場合、

102	102
<input type="radio"/> a	<input checked="" type="radio"/> a
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b
<input type="radio"/> c	<input checked="" type="radio"/> c
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> e

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e へき地で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の **(a)** と **(c)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、		答案用紙②の場合、	
103	(a) (b) (c) (d) (e)	103	103
	↓	(a)	●
103	● (b) ● ● (e)	(b)	(b)
		(c)	→ ●
		(d)	●
		(e)	(e)

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例4)の正解は「d」であるから答案用紙の **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、											答案用紙②の場合、	
104	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	104	104
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	(a)	(a)
	(b)	(b)	(c)	(c)	(d)	(d)	(e)	(e)	(f)	(f)	(b)	(b)
	(c)	(c)	(c)	(c)	(d)	(d)	(e)	(e)	(f)	(f)	(c)	(c)
	(d)	(d)	(d)	(d)	(d)	(d)	(e)	(e)	(f)	(f)	(d)	(d)
	(e)	(f)	(f)	(e)	(e)							
	(f)	(f)										
	(g)	(g)										
	(h)	(h)										
	(i)	(i)										
	(j)	(j)										

1 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)について中心的に取り組む国際機関はどれか。

- a ILO
- b WHO
- c JICA
- d OECD
- e UNAIDS

2 医療事故調査制度について正しいのはどれか。

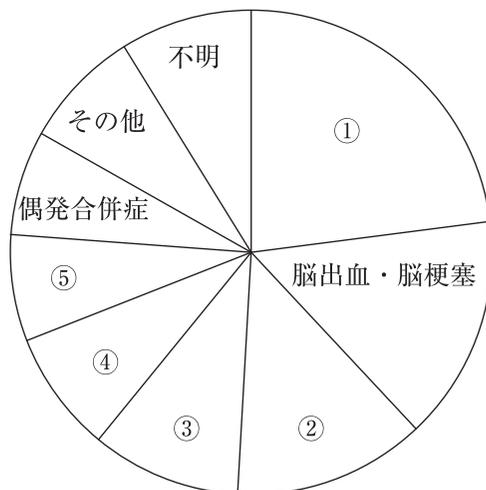
- a 調査は院外機関のみが行う。
- b 診療に起因した死亡全てが対象となる。
- c 事故発生時は医療機関から警察に速やかに届け出る。
- d 調査が終了するまで、医療機関は事故の説明を遺族にしてはならない。
- e 医療の安全を確保するために医療事故の再発防止を目的とした制度である。

3 国際生活機能分類(ICF)の「生活機能と障害」の構成要素に含まれないのはどれか。

- a 活動
- b 環境
- c 参加
- d 心身機能
- e 身体構造

- 4 後期高齢者医療制度における自己負担割合を決定するために必要な情報はどれか。
- a 資産
 - b 居住地
 - c 要介護度
 - d 家族構成
 - e 前年の所得
- 5 病院・診療所と薬局の連携について正しいのはどれか。
- a 内服間違いについて薬剤師が患者から連絡を受けた場合は医師に伝える。
 - b 薬剤師は看護師の指示により患者に服薬指導を行うことができる。
 - c 医療ソーシャルワーカーはお薬手帳の情報を閲覧できない。
 - d 処方箋には薬剤名と病名が記載されている。
 - e 薬剤師が自分の判断で処方を変更できる。
- 6 へき地医療について正しいのはどれか。
- a へき地医療支援機構は市町村ごとに設置する。
 - b へき地医療診療所は一次医療圏毎に設置されている。
 - c へき地保健医療計画は地域医療支援病院が策定する。
 - d へき地医療拠点病院は代診医派遣の役割を担っている。
 - e へき地巡回診療車は地域の救命救急センターから派遣される。

7 2010年(平成22年)から2016年(平成28年)までの日本の妊産婦死亡の原因別頻度を以下に示す。



出典：地域医療基盤開発推進研究事業
(平成28年度厚生労働科学研究費補助金)

①はどれか。

ただし、①～⑤はa～eのいずれかに該当する。

- a 感染症
- b 肺血栓塞栓症
- c 産科危機的出血
- d 心・大血管疾患
- e 心肺虚脱型羊水塞栓症

- 8 精神保健について正しいのはどれか。
- a 措置入院患者数は年々増加している。
 - b 精神科デイケアは医療保険で賄われる。
 - c 精神保健指定医は学会が認定する資格である。
 - d 精神保健福祉センターは市町村ごとに設置される。
 - e 精神障害者社会復帰施設は入院患者の社会復帰訓練を行う。
- 9 ボツリヌス食中毒の予防のための食品の扱いとして適切なのはどれか。
- a 真空保存を行う。
 - b 紫外線照射を行う。
 - c 120℃で4分間加熱する。
 - d 20℃以下の温度で保存する。
 - e pH8以上となるようにする。
- 10 大気汚染に係る環境基準の対象物質はどれか。
- a 鉛
 - b カドミウム
 - c 二酸化硫黄
 - d アルキル水銀化合物
 - e ポリビニルアルコール

- 11 三叉神経の支配を受けるのはどれか。
- a 前頭筋
 - b 側頭筋
 - c 眼輪筋
 - d 口輪筋
 - e 広頸筋
- 12 消化管の消化吸収機能について正しいのはどれか。
- a 閉塞性黄疸は便色に影響しない。
 - b 蛋白の吸収に消化は不要である。
 - c 食物繊維は糖の吸収に影響しない。
 - d 中鎖脂肪酸はリンパ管へ運ばれる。
 - e 長鎖脂肪酸の吸収に胆汁酸が必要である。
- 13 妊娠中の超音波検査所見について正しいのはどれか。
- a 妊娠 3 週で胎嚢を認める。
 - b 妊娠 4 週で胎芽の心拍動を確認できる。
 - c 妊娠 9 週の胎児心拍数は 160～180/分である。
 - d 妊娠 10 週に児頭大横径(BPD)で分娩予定日を修正する。
 - e 妊娠 15 週で生理的臍帯ヘルニアを観察できる。

- 14 中咽頭癌に対する放射線治療の有害事象で、最も早期に出現するのはどれか。
- a 粘膜炎
 - b 白内障
 - c 唾液腺障害
 - d 放射線肺炎
 - e 放射線誘発癌
- 15 顔面を殴打された直後の患者の顔面骨 3D-CT(別冊No. 1)を別に示す。
症状として考えられるのはどれか。
- a 嗄 声
 - b 鼻 閉
 - c 開口障害
 - d 咬合異常
 - e 顔面神経麻痺

別 冊

No. 1

- 16 低補体血症をきたす疾患はどれか。
- a 巨細胞性動脈炎
 - b クリオグロブリン血症性血管炎
 - c 結節性多発動脈炎
 - d 顕微鏡的多発血管炎
 - e 高安動脈炎〈大動脈炎症候群〉

- 17 一次予防に該当するのはどれか。2つ選べ。
- a 住民がん検診
 - b 脳梗塞後の理学療法
 - c 精神障害者の作業療法
 - d 性感染症予防のためのコンドーム使用
 - e ヒトパピローマウイルス〈HPV〉ワクチン接種
- 18 我が国の人口統計の最近20年間の変化として正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 乳児死亡率は上昇傾向にある。
 - b 自然増減数はマイナスに転じた。
 - c 老年人口指数は低下傾向にある。
 - d 交通事故の死亡者数は減少傾向にある。
 - e 悪性新生物の年齢調整死亡率は上昇傾向にある。
- 19 マグネシウムの欠乏に関連するのはどれか。2つ選べ。
- a 脱毛
 - b 不整脈
 - c 皮膚炎
 - d テタニー
 - e 味覚障害

20 地域における保健、医療、福祉および介護の各組織とその機能の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 児童相談所 ————— 発達障害児の療育相談
- b 地方衛生研究所 ————— 医療事故調査と原因究明
- c 社会福祉協議会 ————— 生活保護の受給手続き受付
- d 市町村保健センター ————— 自立支援医療の指定提供機関の指定
- e 地域包括支援センター ————— 高齢者虐待の被害者の保護

21 急性虫垂炎でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a Blumberg 徴候
- b Courvoisier 徴候
- c Grey-Turner 徴候
- d Murphy 徴候
- e Rosenstein 徴候

22 終末期がん患者のケアについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 家族に対するケアも行う。
- b 死について考えるのを避けさせる。
- c 自然治癒の可能性や新薬発見などへの希望を改めさせる。
- d 患者の担っていた社会的役割に配慮したケア計画を立てる。
- e 家族との面会よりも医療スタッフによるケアを優先させる。

23 高齢者の内分泌系にみられる特徴はどれか。2つ選べ。

- a ギナドトロピン分泌低下
- b コルチゾール分泌亢進
- c インスリン抵抗性増大
- d サイロキシン分泌低下
- e レニン分泌低下

24 副交感神経を含むのはどれか。3つ選べ。

- a 動眼神経
- b 三叉神経
- c 顔面神経
- d 迷走神経
- e 舌下神経

25 80歳の男性。誤嚥性肺炎、脳梗塞による左片麻痺、脳血管性認知症および仙骨部褥瘡のため入院中である。寝たきりの状態で経口摂取が困難であり、経鼻経管栄養を行っている。肺炎は抗菌薬治療により改善し、在宅医療を担当する医師に診療情報提供を行うとともに、自宅への退院に向けて退院支援チームで相談をすることとなった。

正しい対応はどれか。

- a 褥瘡チームの介入を中断する。
- b 吸引器を自宅に準備してもらう。
- c 看護師が胃管の挿入を家族に指導する。
- d 主治医が退院後のケアプランを作成する。
- e ケアマネジャーが喀痰吸引を家族に指導する。

26 70歳の男性。労作時の呼吸困難を主訴に来院した。10年前から労作時の呼吸困難を自覚していたが、徐々に増強したため受診した。喘鳴の自覚はない。喫煙は40本/日を50年間。脈拍72/分、整。血圧128/74 mmHg。呼吸数16/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。呼吸機能検査では1秒率の低下を認め、 β_2 刺激薬の吸入で1秒率低下の改善を認めなかった。胸部エックス線写真(別冊No. 2A)及び胸部CT(別冊No. 2B)を別に示す。

対応として適切でないのはどれか。

- a 禁煙指導
- b 23価肺炎球菌ワクチン接種
- c インフルエンザワクチン接種
- d 長時間作用性抗コリン薬投与
- e ロイコトリエン受容体拮抗薬投与



27 40歳の男性。風疹対策のポスターを見て来院した。風疹のワクチン接種は受けておらず感染歴は明らかではない。健康状態は良好で、既往歴に特記すべきことはない。本人はワクチン接種を希望している。

正しいのはどれか。

- a 免疫を獲得している可能性が高くワクチン接種は必要ない。
- b 他のワクチンを接種する場合は1週間以上の間隔をあける。
- c 副作用の可能性が高くワクチン接種は避けるべきである。
- d ワクチン接種に抗体価の測定は必須ではない。
- e 成人のワクチン接種は経口でも行える。

28 28歳の男性。本人から面談の申し出があり産業医を訪れた。職場でストレスチェックを行った際、高ストレス者として選定され、面談指導が勧奨されたという。3か月前に実施した定期健康診断では身長172cm、体重65kg。血圧136/88mmHg。血液検査および生化学検査に異常を認めなかった。既往歴に特記すべきことはない。4か月前に新しい部署に異動し、それまでに経験のない対外折衝業務を担当することになったが、新しい業務になじめずにいた。上司や同僚ともあまり会話が無く、業務量も増加し、残業や休日出勤も必要となっていた。ここ1か月は、休日にも仕事のことが頭から離れなくなり、夜、なかなか寝付けず、朝も起きられないため、遅刻が目立つようになってきた。来所時の体重は62kg。血圧142/92mmHg。最近、夫婦仲も悪化し、けんかが絶えないという。本人はストレスの原因は、不本意な人事異動にあると考えており、異動を強く希望している。産業医がまず行う対応として適切なのはどれか。

- a 精神科受診を指示し面談を打ち切る。
- b ストレスについて業務上のことに限定して聞く。
- c 管理監督者を交えた3者面談を本人に提案する。
- d 異動できるよう、意見書を直ちに事業者に提出する。
- e 直ちにストレスチェックの結果を人事責任者に閲覧させる。

29 29歳の女性(2妊0産)。今まで自宅近くのA医院で妊婦健康診査を受けていたが、妊娠32週0日に里帰り分娩を希望して来院した。24歳時に妊娠9週で人工妊娠中絶を受けた。2日前から実家で生活を始め、分娩後2か月で自宅に戻る予定だという。身長163cm。体重66kg。体温36.5℃。脈拍84/分、整。血圧134/76mmHg。子宮底長29cm、腹囲83cm。下腿浮腫を認めない。尿所見：蛋白(±)、糖(±)。血液所見：赤血球380万、Hb11.8g/dL、Ht34%、白血球9,800、血小板16万。腹部超音波検査で、胎児は頭位で形態異常はなく、推定体重は1,800g、胎盤は子宮底部に付着し、羊水指数<AFI>は10.8cmである。持参した母子健康手帳の記載(別冊No. 3)を別に示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 鉄剤を投与する。
- b 帝王切開を行う。
- c biophysical profile score<BPS>を評価する。
- d 2週間後に妊婦健康診査を受けるよう指導する。
- e 経口グルコース負荷試験<75g OGTT>を行う。

別 冊

No. 3

30 72歳の女性。下腹部痛と血便のため救急外来を受診した。本日就寝前に急激な下腹部痛と下痢が出現した。数回の下痢に続いて鮮紅色の血便が出現したため受診した。20年前から糖尿病と高血圧症で自宅近くの診療所に通院している。意識は清明。体温37.2℃。脈拍96/分、整。血圧142/92 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 96%(room air)。腹部は平坦で、左下腹部に自発痛と圧痛を認める。筋性防御を認めない。血液所見：赤血球380万、Hb 11.4 g/dL、Ht 39%、白血球11,200(桿状核好中球4%、分葉核好中球55%、好酸球2%、単球7%、リンパ球32%)、血小板23万。血液生化学所見：総蛋白6.9 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、AST 24 U/L、ALT 27 U/L、LD 267 U/L(基準176~353)、アミラーゼ60 U/L(基準37~160)、尿素窒素21 mg/dL、クレアチニン1.1 mg/dL、尿酸6.6 mg/dL、血糖138 mg/dL、HbA1c 6.9%(基準4.6~6.2)、Na 141 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 99 mEq/L。CRP 2.1 mg/dL。動脈血ガス分析(room air)：pH 7.41、PaCO₂ 36 Torr、PaO₂ 90 Torr、HCO₃⁻ 24 mEq/L。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 虚血性腸炎
- b 薬物性腸炎
- c 肛門周囲膿瘍
- d 好酸球性胃腸炎
- e 上腸間膜動脈閉塞症

31 70歳の男性。腎機能低下のため来院した。20年前から健診で尿蛋白と尿潜血を指摘されている。5年前から腎機能低下を指摘された。2か月前の定期検査で腎機能がさらに低下していたため、腎代替療法の準備を勧められて受診した。55歳時に急性心筋梗塞の既往があり、左室収縮能の低下(左室駆出率35%)がある。アスピリン、アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬およびβ遮断薬を内服している。61歳時に交通外傷で脾臓摘出と小腸部分切除を受け、その後癒着性イレウスで2回開腹歴がある。65歳から糖尿病を指摘されて経口糖尿病薬を服用している。身長160 cm、体重80 kg。脈拍72/分、整。血圧120/86 mmHg。腹部は平坦、軟で、心窩部から臍下部にかけて手術痕がある。両下腿に浮腫を認める。認知機能は正常で、神経診察に異常を認めない。尿所見：蛋白3+、糖(-)、潜血2+、沈渣で多彩な変形赤血球と顆粒円柱を認める。1日尿量2,050 mL。血液所見：赤血球358万、Hb 10.5 g/dL、Ht 31%、白血球5,700、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白6.6 g/dL、アルブミン3.5 g/dL、尿素窒素50 mg/dL、クレアチニン5.1 mg/dL、eGFR 9 mL/分/1.73 m²、HbA1c 7.0%(基準4.6~6.2)、Na 142 mEq/L、K 4.5 mEq/L、Cl 103 mEq/L。

腎代替療法についての説明で適切なのはどれか。

- a 「心臓が悪いので腹膜透析は適しません」
- b 「糖尿病があるので腹膜透析は適しません」
- c 「血液透析は尿が出なくなってから開始します」
- d 「アスピリンを服用しているので血液透析は適しません」
- e 「大きな腹部手術の既往があるので腹膜透析は適しません」

32 68歳の男性。健診で血清蛋白異常を指摘され来院した。特に自覚症状はない。既往歴に特記すべきことはない。表在リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。浮腫を認めない。血液所見：赤血球438万、Hb 13.8 g/dL、Ht 45%、白血球5,800、血小板25万。血液生化学所見：総蛋白8.2 g/dL、アルブミン4.7 g/dL、IgG 2,628 mg/dL (基準960~1,960)、IgA 319 mg/dL (基準110~410)、IgM 211 mg/dL (基準65~350)、総ビリルビン0.7 mg/dL、AST 26 U/L、ALT 38 U/L、LD 285 U/L (基準176~353)、ALP 295 U/L (基準115~359)、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン0.9 mg/dL、尿酸5.6 mg/dL。

診断のために最も重要な血液検査項目はどれか。

- a 可溶性IL-2受容体
- b 寒冷凝集反応
- c 血清カルシウム値
- d 血清免疫電気泳動
- e 直接Coombs試験

33 28歳の女性。挙児を希望して来院した。月経周期は30日型、持続は5日間。避妊せずに3か月経ったが妊娠しなかったため来院した。内診で子宮と卵巣とに異常を認めない。Douglas窩に異常を認めない。基礎体温は2相性である。

この時点で適切な説明はどれか。

- a 「排卵日を見つけましょう」
- b 「子宮卵管造影検査をします」
- c 「排卵誘発薬を服用してください」
- d 「あなたの染色体検査をしましょう」
- e 「抗カルジオリピン抗体を検査します」

34 日齢1の新生児。在胎40週0日、出生体重2,594gで、正常分娩で出生した。Apgarスコアは8点(1分)、9点(5分)。出生12時間後から嘔吐が出現し、出生から24時間経っても胎便の排泄がなく、胆汁性嘔吐を認めたためNICUに搬入された。体重2,400g。体温37.6℃。心拍数40/分、整。血圧70/40mmHg。呼吸数52/分。SpO₂99%(room air)。このときの腹部所見(別冊No. 4A)及び胸腹部エックス線写真(臥位)(別冊No. 4B)を別に示す。血液所見：Hb19.4g/dL、白血球11,600、血小板35万。血液生化学検査：尿素窒素17mg/dL、クレアチニン1.3mg/dL、総ビリルビン9.4mg/dL。経鼻胃管を挿入するとともに、輸液を開始した。

次に行うべきなのはどれか。

- a 光線療法
- b 酸素投与
- c 抗菌薬投与
- d 注腸造影検査
- e 心エコー検査

別 冊 No. 4 A、B

35 45歳の男性。造船所でアーク溶接作業に従事している。本日、午前11時ころ、作業場が暑かったので、保護具を外して汗をぬぐってしまい、溶接時に発生する光に曝露したという。特に自覚症状はなく、その後の作業にも差し障りはなかったが、念のためと同じ作業場の同僚が気遣い、昼食後、午後2時に同僚とともに医務室を訪れた。意識は清明。眼球結膜に軽度充血を認める。視野は良好。眼や耳の痛みは訴えていない。瞳孔、口腔粘膜および皮膚に異常を認めない。

対応として適切なのはどれか。

- a 問題ないと伝える。
- b 救急車を要請する。
- c 水分を経口摂取させる。
- d 呼吸機能検査を勧める。
- e 眼科医への紹介受診を勧める。

36 47歳の女性。顔面の皮疹を主訴に来院した。2か月前から自宅近くの診療所で顔面の皮疹に対し外用薬が処方され、使用しているうちに新たな皮疹が出現してきたという。口周囲、頬部に丘疹、膿疱を認める。顔面の写真(別冊No. 5)を別に示す。

この皮疹の原因と考えられる外用薬はどれか。

- a 抗菌薬
- b 抗真菌薬
- c 過酸化ベンゾイル
- d 活性型ビタミンD₃
- e 副腎皮質ステロイド

別 冊

No. 5

37 76歳の男性。記憶障害を心配した妻に付き添われて来院した。妻によると3か月前に、呼びかけても返事がなく宙を見つめるようなことが初めてあった。その後、同様の症状を月に1、2回目撃している。症状発現時には、口をもぐもぐしたり、手指を不規則に動かしたりするような動作がみられることもある。数分で回復することが多いが、その時のことを本人に尋ねても、何も覚えていない。本人は「妻から言われたことを全く覚えていないので、認知症ではないかと不安です」と述べている。かかりつけ医の処方には降圧薬があるが、睡眠薬や抗精神病薬は含まれていない。体温 36.3℃。脈拍 72/分、整。血圧 128/76 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。Mini-Mental State Examination〈MMSE〉29点(30点満点)。神経診察に異常を認めない。尿所見、血液所見および血液生化学所見に異常を認めない。頭部MRIに異常を認めない。

次に行うべき検査はどれか。

- a 脳波
- b 表面筋電図
- c 聴性脳幹反応
- d 脳脊髄液検査
- e MIBG心筋シンチグラフィ

38 9歳の男児。陰毛発生、変声を主訴に母親に連れられて来院した。幼稚園の頃から一番背が高かった。半年前から陰毛が発生し、最近になり周囲から変声を指摘され、心配になり来院した。既往歴に特記すべきことはない。家族の身長は、父親175 cm、母親159 cm(10歳で初経)、兄14歳175 cm(12歳で変声)、姉12歳152 cm(10歳で初経)。本人は身長150 cm、体重51 kg。体温36.5℃。口腔内に異常を認めない。甲状腺と頸部リンパ節の腫大を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。Café au lait 斑を認めない。

次に行うべきなのはどれか。

- a 頭部MRI
- b 成長曲線の確認
- c LHRH 負荷試験
- d 腹部超音波検査
- e 胸部エックス線撮影

39 35歳の初妊婦(1妊0産)。初回妊婦健康診査のため妊娠11週2日に来院した。無月経を主訴に3週間前に受診し、子宮内に妊娠8週相当の胎児を認め妊娠と診断された。

初期血液検査の説明として適切なのはどれか。

- a 「梅毒の検査は省略しましょう」
- b 「B群レンサ球菌(GBS)の検査が含まれます」
- c 「風疹抗体が陽性の場合、先天性風疹症候群を発症します」
- d 「C型肝炎ウイルス検査が陽性の場合、赤ちゃんにワクチンを接種します」
- e 「B型肝炎ウイルス検査が陽性の場合、赤ちゃんに抗HBsヒト免疫グロブリンを投与します」

40 69歳の女性。四肢関節痛を主訴に来院した。5年前から手指のこわばり、移動性の疼痛があった。3年前から便秘と下痢を繰り返し、過敏性腸症候群と診断された。半年前、夫が肺癌で死去した。そのころから、四肢関節痛や腰背部痛が悪化したため4週間前に自宅近くの診療所を受診し、NSAIDsの処方を受けたが寛解しなかった。体重に変化はない。体温36.2℃。脈拍80/分、整。血圧120/76 mmHg。手指遠位指節間関節や近位指節間関節に骨棘を触れる。手指や手首、膝など多関節に圧痛を認めるが、腫脹を認めない。両側の項部や僧帽筋上縁中央部、下位頸椎横突起間、第二肋骨肋軟骨接合部、上腕骨外側上顆付近、臀部上外側、大腿骨大転子後方の触診時、顔をしかめるような疼痛反応を認める。尿所見に異常を認めない。赤沈10 mm/1時間。血液所見：赤血球425万、Hb 12.8 g/dL、Ht 40%、白血球4,200、血小板19万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dL、AST 21 U/L、ALT 16 U/L、LD 188 U/L(基準176~353)、尿素窒素10 mg/dL、クレアチニン0.4 mg/dL、CK 48 U/L(基準30~140)、コルチゾール12.4 μg/dL(基準5.2~12.6)。免疫血清学所見：CRP 0.1 mg/dL、リウマトイド因子(RF)陰性、抗核抗体陰性。

最も考えられるのはどれか。

- a 線維筋痛症
- b 強直性脊椎炎
- c 関節リウマチ
- d Sjögren 症候群
- e リウマチ性多発筋痛症

41 7歳の男児。小学1年生の心電図検診で左室肥大を指摘され来院した。現在まで家庭や学校での生活で易疲労性を指摘されたことはない。右上肢の血圧は142/88 mmHgで、左背部で収縮期に雑音を聴取する。心エコー検査で左室壁が肥厚しているが、左室の壁運動に異常を認めない。明らかな心内シャントは認めない。

予想される所見はどれか。

- a 肝腫大
- b II音の亢進
- c 左前胸部の突出
- d 上下肢の血圧較差
- e 毛細血管再充満時間の延長

42 62歳の女性。便潜血の精密検査を目的に来院した。便潜血検査による検診を受け、1日目が陽性、2日目が陰性であったため、精密検査が必要と判定されて受診した。友人から「内視鏡検査は苦痛だ」と聞いており、内視鏡検査を受けることを躊躇している。便通は毎日あり、便柱狭小化はない。最近数年間で体重の明らかな増減はない。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はなく、飲酒は機会飲酒。大腸癌の家族歴はない。身長155 cm、体重56 kg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知せず、圧痛を認めない。

最も適切な対応はどれか。

- a 「腹部超音波検査を行きましょう」
- b 「大腸癌の腫瘍マーカーの血液検査をしましょう」
- c 「経過をみて、6か月後に便潜血を再検しましょう」
- d 「便潜血の再検査を行い、その結果で考えましょう」
- e 「大腸内視鏡検査の必要性について詳しく説明させてください」

43 22歳の男性。就職時の健診で尿糖陽性を指摘され来院した。健診では、他の異常は認められなかった。健診時は朝食後に検査を受けたという。家族歴に特記すべきことはない。喫煙歴と飲酒歴はない。身長170 cm、体重62 kg。脈拍72/分、整。血圧118/70 mmHg。経口グルコース負荷試験(75 g OGTT)の結果を示す。

	血糖 (mg/dL)	尿糖 (定性)
負荷前	86	(-)
負荷後 30 分	186	2 +
負荷後 1 時間	142	1 +
負荷後 2 時間	90	(-)

適切なのはどれか。

- a 対応は不要
- b 自宅での尿糖自己測定 of 指示
- c α -グルコシダーゼ阻害薬投与
- d 28 kcal/標準体重 kg の食事指導
- e 経口グルコース負荷試験(75 g OGTT)の再検査

44 25歳の女性。妊娠12週 of 初産婦(1妊0産)。本日朝から性器出血があり完全流産となった。妊娠初期検査で、血液型はO型 RhD(-)、間接Coombs試験は陰性。

本日の対応として優先すべきなのはどれか。

- a 経過観察
- b 直接Coombs試験
- c ハプトグロビン投与
- d 抗ヒトRhD抗体投与
- e 副腎皮質ステロイド投与

45 68歳の男性。皮膚の黄染と食欲不振を主訴に来院した。精査の結果、閉塞性黄疸を合併する膵頭部癌と診断された。身長168 cm、体重53 kg(3か月間で5 kgの体重減少)。体温36.6℃。脈拍76/分、整。血圧110/78 mmHg。呼吸数16/分。血液所見：赤血球398万、Hb 11.9 g/dL、Ht 39%、白血球7,400、血小板34万。血液生化学所見：総蛋白6.0 g/dL、アルブミン3.4 g/dL、総ビリルビン2.7 mg/dL、AST 56 U/L、ALT 48 U/L、 γ -GTP 76 U/L(基準8~50)、尿素窒素13 mg/dL、クレアチニン0.4 mg/dL、血糖84 mg/dL、HbA1c 6.0%(基準4.6~6.2)、総コレステロール194 mg/dL、トリグリセリド78 mg/dL、アミラーゼ96 IU/L(基準37~160)、CEA 7.5 ng/mL(基準5以下)、CA19-9 107 U/mL(基準37以下)。内視鏡的に閉塞部胆管にステントを留置し、黄疸の軽減を待つ膵頭十二指腸切除術を施行することとなった。

この患者の周術期について正しいのはどれか。

- a 術前のサルコペニアは術後の経過に影響しない。
- b 術前1週間の絶飲食が必要である。
- c 術後早期は高血糖を呈しやすい。
- d 術後早期の疼痛緩和は回復を遅延する。
- e 術後1週間以内の経腸栄養は禁忌である。

46 71歳の女性。労作時呼吸困難の増悪を主訴に来院した。約10年前にCOPDと診断された。1年前からⅡ型呼吸不全をきたしたため在宅酸素療法(1L/分)を行っている。前回外来診察時には呼吸数20/分、SpO₂94%(鼻カニューラ1L/分酸素投与下)であった。数日前より労作時呼吸困難が悪化したため、家族に付き添われて受診した。外来待合室で30分くらい前から居眠りをしていた。付き添いの家族が呼びかけに 응답しないことに気付いて、看護師に声をかけた。脈拍104/分、整。血圧144/92mmHg。呼吸数8/分。SpO₂91%。吸入酸素量を確認したところ、5L/分であった。家族によると、タクシーを降りてから待合室まで歩行したところ、呼吸が苦しくなったので本人が酸素量を増やしたとのことであった。

現時点で**必要ない**のはどれか。

- a 静脈路確保
- b 気管挿管の準備
- c 動脈血ガス分析
- d 心電図モニター装着
- e リザーバー付マスクによる酸素投与

47 24歳の女性。発熱と頸部腫瘍を主訴に来院した。2か月前から左頸部腫瘍を自覚していた。2週間前に発熱と寝汗が出現し、改善しないため受診した。6か月で7kgの体重減少があった。体温37.8℃。脈拍96/分、整。左頸部、左鎖骨上窩および両側鼠径部に弾性硬、圧痛のない径2～3cmのリンパ節を4個触知する。左頸部リンパ節の生検組織のH-E染色標本(別冊No. 6)を別に示す。免疫染色ではCD30陽性の細胞を認める。

この患者に行う治療に含むべき薬剤はどれか。

- a イソニアジド
- b リツキシマブ
- c ビンクリスチン
- d ブレオマイシン
- e 全トランス型レチノイン酸

別 冊

No. 6

48 34歳の初産婦(1妊0産)。妊娠39週4日の午前6時に陣痛発来のため入院した。これまでの妊娠経過は順調であった。午後4時に子宮口は全開大した。午後6時50分に破水し、内診で児頭下降度はSP+4cm、0時方向に小泉門を触知した。この時点での胎児心拍数陣痛図(別冊No.7)を別に示す。

対応として最も適切なのはどれか。

- a 吸引分娩
- b 帝王切開
- c 抗菌薬投与
- d 陣痛促進薬投与
- e 子宮収縮抑制薬投与

別 冊

No. 7

49 70歳の男性。肺癌の治療で入院中である。肺癌にて右肺下葉切除術、縦隔リンパ節郭清術が施行された。術後1日目に食事を開始し、術後2日目に約1,000mLの白色混濁した胸水が胸腔ドレーンから排出された。胸水中トリグリセリド150mg/dL。

対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 高脂肪食
- b 胃管挿入
- c 胸管結紮術
- d 完全静脈栄養
- e 胸腔ドレーン追加挿入

50 51歳の女性。左腎細胞癌に対して根治的左腎摘除術を受けている。術後10か月で、両肺に径1cm未満の肺転移が複数出現した。

肺転移に対して、まず行うべき治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 手術
- b 分子標的薬
- c 放射線照射
- d ホルモン療法
- e インターフェロン

次の文を読み、51～53の問いに答えよ。

36歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠33週に、倦怠感と口渇のため受診した。

現病歴 : 妊娠前のBMIは20.8であった。これまで毎年受けている健診で異常を指摘されたことはない。妊娠18週で尿糖陽性を指摘されたが、その後妊婦健康診査に行かなくなった。妊娠25週で全身倦怠感が出現した。2日前から倦怠感が増悪し、口渇が出現した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴および飲酒歴はない。

家族歴 : 父が高血圧症。

現症 : 身長152 cm、体重62 kg。体温37.6℃。脈拍108/分、整。血圧112/82 mmHg。呼吸数26/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内は乾燥している。心音と呼吸音とに異常を認めない。子宮底長35 cm、腹囲95 cm。腱反射に異常を認めない。眼底に糖尿病網膜症の所見を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(-)、糖2+、ケトン体(-)。血液所見：赤血球468万、Hb13.9 g/dL、Ht42%、白血球10,300(桿状核好中球30%、分葉核好中球45%、好酸球1%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球17%)、血小板21万。血液生化学所見：AST28 U/L、ALT16 U/L、尿素窒素12 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、尿酸4.9 mg/dL、血糖255 mg/dL、HbA1c7.8% (基準4.6~6.2)、Na143 mEq/L、K4.9 mEq/L。免疫血清学所見：抗GAD抗体陰性。腹部超音波検査では児の推定体重2,450 g(+2.0 SD)。明らかな心疾患を認めない。

51 この母体と胎児の状態について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 糖尿病合併妊娠である。
- b 胎児は低血糖になりやすい。
- c 1週間前の耐糖能は正常である。
- d 妊娠によりインスリン抵抗性が生じている。
- e 母体の高血糖と胎児の過体重には関連性がある。

52 薬物療法として適切なのはどれか。

- a NSAIDs
- b β 遮断薬
- c インスリン
- d 経口血糖降下薬
- e 陽イオン交換樹脂製剤

その後の経過 : 治療が奏功し児は在胎 39 週 1 日、出生体重 3,796 g で、経膈分娩で出生した。Apgar スコア 9 点(1 分)、9 点(5 分)。出生後 1 時間の児の血糖は 58 mg/dL。生後 1 時間 30 分から小刻みに四肢を震わせることを繰り返すようになった。体温 37.3℃。心拍数 150/分、整。呼吸数 50/分。SpO₂ 99% (room air)。大泉門は平坦、心音と呼吸音とに異常を認めない。筋緊張は正常で、Moro 反射は正常に出現する。

53 直ちに児に行う検査はどれか。

- a 頭部 MRI
- b 血糖値測定
- c 神経伝導検査
- d 動脈血ガス分析
- e 胸腹部エックス線

次の文を読み、54～56の問いに答えよ。

82歳の女性。転倒し救急車で搬入された。

現病歴 : 廊下で倒れているところを家族が発見し、救急車を要請した。半年前から階段昇降時の息切れを自覚していた。

既往歴 : 68歳時から高血圧症のためカルシウム拮抗薬、糖尿病のためビグアナイド薬、75歳時から深部静脈血栓症のためワルファリン、76歳時から不眠症のためベンゾジアゼピン系睡眠薬、骨粗鬆症のためビスホスホネート製剤で治療中。

生活歴 : 日常生活動作〈ADL〉は自立。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 問いかけに対し名前を言うことができる。身長152 cm、体重42 kg。体温36.6℃。心拍数72/分、整。仰臥位で血圧112/68 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂ 98% (room air)。眼瞼結膜は貧血様である。眼球結膜に黄染を認めない。前頭部に2 cm大の皮下血腫を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。神経診察を含む身体診察に異常を認めない。

54 転倒の原因を評価するための質問として有用性が低いのはどれか。

- a 「転倒した時のことを覚えていますか」
- b 「打撲して最も痛い部位はどこですか」
- c 「転倒するときに何かにつまずきましたか」
- d 「手足のしびれや、動かしづらさはありませんか」
- e 「これまで痙攣発作を起こしたと言われたことがありますか」

頭部 CT では皮下血腫のみで頭蓋内に異常を認めなかった。座位にしたところ 1 分後にふらつきを生じ「目の前が暗くなる」と訴えた。心拍数 120/分、整。血圧 82/40 mmHg。呼吸数 20/分。直腸診で黒色便の付着を認める。静脈路を確保して輸液を開始し、血圧は 110/62 mmHg に上昇した。

検査所見 : 血液所見：赤血球 245 万、Hb 7.5 g/dL、Ht 24 %、白血球 9,600、血小板 18 万。血液生化学所見：総蛋白 6.5 g/dL、アルブミン 3.2 g/dL、AST 20 U/L、ALT 30 U/L、尿素窒素 65 mg/dL、クレアチニン 0.6 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.5 mEq/L、Cl 108 mEq/L。

55 次に優先すべき検査はどれか。

- a 頭部 MRI
- b 腰椎 MRI
- c Holter 心電図
- d 頸動脈超音波検査
- e 上部消化管内視鏡検査

56 この患者において今後の頭蓋内出血の出現を予測する上で、最も注意すべき薬剤内服歴はどれか。

- a ワルファリン
- b ビグアナイド薬
- c カルシウム拮抗薬
- d ビスホスホネート製剤
- e ベンゾジアゼピン系睡眠薬

次の文を読み、57～59の問いに答えよ。

58歳の男性。息苦しさで左胸部痛を主訴に救急車で搬入された。

現病歴 : 30分前に職場でデスクワーク中、突然の息苦しさで左胸部全体の痛みが出現した。症状が強く、職場の同僚が救急車を要請した。

既往歴 : 特記すべきことはない。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒はビール 350 mL/日。

家族歴 : 父親が胃痛で死亡。

現症 : 意識は清明。身長 160 cm、体重 86 kg。体温 36.2℃。脈拍 108/分、整。血圧 128/70 mmHg。呼吸数 30/分。SpO₂ 93% (リザーバー付マスク 10 L/分酸素投与下)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。II音の亢進を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。神経診察に異常を認めない。ポータブルの胸部エックス線写真で異常を認めない。

57 心電図(別冊No. 8)を別に示す。

この心電図所見で正しいのはどれか。

- a 心房粗動
- b 正常電気軸
- c デルタ波
- d 完全左脚ブロック
- e QT 短縮

別 冊

No. 8

検査所見 : 血液所見：赤血球 450 万、Hb 13.3 g/dL、Ht 40 %、白血球 6,200、血小板 18 万。血液生化学所見：AST 32 U/L、ALT 45 U/L、LD 260 U/L (基準 176~353)、CK 98 U/L (基準 30~140)、尿素窒素 11 mg/dL、クレアチニン 0.6 mg/dL、血糖 102 mg/dL。心エコー検査で右心系の拡大および左室の圧排像を認める。

58 診断確定のために行うべき検査はどれか。

- a 胸部 MRI
- b 冠動脈造影
- c 胸部造影 CT
- d 呼吸機能検査
- e 運動負荷心電図

59 検査の準備中、突然息苦しさが悪化し、その後意識レベルは JCS II-10 まで低下した。心拍数 128/分、整。血圧 70/40 mmHg。SpO₂ は測定不能。頸静脈の怒張を認める。

考えられる病態はどれか。

- a 出血性ショック
- b 心原性ショック
- c 閉塞性ショック
- d 敗血症性ショック
- e アナフィラキシーショック

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

52歳の男性。歩行時の胸痛を主訴に来院した。

現病歴 : 1週間前から階段を昇ったときに前胸部痛を感じていた。前胸部痛は下顎にも放散し、安静にすると1分程度で消失していた。4日前から平地歩行でも胸痛が出現。今朝からは安静時にも2～3分続く症状が出現するようになったため、家族に付き添われて来院した。

既往歴 : 3年前から高血圧症で、カルシウム拮抗薬とアンジオテンシン変換酵素〈ACE〉阻害薬を内服中。

生活歴 : 喫煙は15本/日を30年間。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親が脂質異常症。

現症 : 身長168 cm、体重88 kg。脈拍72/分、整。血圧136/78 mmHg。呼吸数28/分。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球450万、Hb 14.5 g/dL、Ht 42%、白血球6,800、血小板25万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン4.0 g/dL、AST 25 U/L、ALT 20 U/L、尿素窒素15 mg/dL、クレアチニン1.0 mg/dL、総コレステロール280 mg/dL、トリグリセリド150 mg/dL、HDLコレステロール54 mg/dL、CK 128 U/L(基準30～140)、尿酸6.6 mg/dL。心電図で洞調律、心拍数84/分、整。V1、V2、V3、V4に軽度のST低下を認める。

60 Brinkman 指数はどれか。

- a 52
- b 154
- c 176
- d 350
- e 450

61 冠動脈造影検査が施行された。冠動脈造影像(別冊No. 9)を別に示す。

矢印で示す血管はどれか。

- a 左冠動脈前下行枝
- b 左冠動脈主幹部
- c 左冠動脈回旋枝
- d 右冠動脈
- e 中隔枝

別 冊

No. 9

62 冠動脈ステント留置術が行われた。

これまでの内服に加えて、追加投与が必要な薬剤はどれか。2つ選べ。

- a スタチン
- b 抗凝固薬
- c 経口強心薬
- d 抗血小板薬
- e 尿酸降下薬

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

62歳の男性。血便を主訴に来院した。

現病歴 : 本日夕食後に多量の暗赤色の便が出現し、ふらつきを自覚したため救急外来を受診した。特に腹痛や下痢を自覚していない。

既往歴 : 30年前から高血圧症と糖尿病で内服治療中。10年前から心房細動に対してワルファリンを処方されている。最近、処方薬の増量や変更はない。

生活歴 : 妻と2人暮らし。喫煙は50歳まで20本/日を20年間。飲酒はビール350 mL/日。

家族歴 : 父親が脳梗塞。母親が大腸癌。

現症 : 意識は清明。身長169 cm、体重70 kg。体温36.7℃。脈拍88/分、不整。血圧114/78 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂ 96%(room air)。眼瞼結膜は貧血様だが、眼球結膜に黄染を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音はやや亢進している。直腸指診で暗赤色の便の付着を認める。四肢に軽度の冷汗を認める。

検査所見 : 血液所見：赤血球299万、Hb 9.7 g/dL、Ht 32%、白血球12,000、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dL、アルブミン3.6 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、AST 28 U/L、ALT 22 U/L、LD 277 U/L(基準176～353)、 γ -GTP 41 U/L(基準8～50)、アミラーゼ80 U/L(基準37～160)、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン1.1 mg/dL、尿酸6.7 mg/dL、血糖128 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.5 mEq/L、Cl 100 mEq/L。CRP 1.9 mg/dL。腹部単純CT(別冊No. 10A)及び腹部造影CT(別冊No. 10B、C)を別に示す。

別冊

No. 10 A～C

63 まず測定すべきなのはどれか。

- a PaO₂
- b PT-INR
- c D ダイマー
- d 血小板粘着能
- e 心筋トロポニン T

64 最も考えられるのはどれか。

- a 大腸憩室症
- b 虚血性腸炎
- c 潰瘍性大腸炎
- d 非閉塞性腸管虚血症
- e 腸管出血性大腸菌感染症

その後の経過 : 入院後、翌朝までに赤血球液-LR 6 単位の輸血を行ったが、Hb 値は 8.2 g/dL で血便が持続している。下部消化管内視鏡検査を行ったが多量の凝血塊のため止血術を実施できなかった。

65 この時点で考慮すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 腸管切除術
- b 動脈塞栓術
- c 血栓溶解療法
- d 血漿交換療法
- e 高圧酸素療法

66 卵膜の構成について母体側から胎児側の順で正しいのはどれか。

- a 絨毛膜→羊膜→脱落膜
- b 絨毛膜→脱落膜→羊膜
- c 脱落膜→絨毛膜→羊膜
- d 脱落膜→羊膜→絨毛膜
- e 羊膜→絨毛膜→脱落膜
- f 羊膜→脱落膜→絨毛膜

